



北の大地とともに

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 CSRレポート 2008

®
Coca-Cola



北海道生まれ、
北海道のみなまに育てられた道産子企業です。

CONTENTS

-
- 01P** ごあいさつ
-
- 02P** 北海道のみなさまに、「さわやかさと潤い」をお届けします。
-
- 04P** **VENDING MACHINES**
お役に立てる自動販売機を目指して活動を継続しています。
街角に、暮らしに、自動販売機で広げる安全・安心のネットワーク。
-
- 08P** **We Love "Water Planet"**
地球にやさしい、人づくりの輪を応援しています。
ゆたかな環境について、ともに考え、ともに歩む企業を目指します。
いままでもこれからもリサイクルの取り組みを続けます。
きれいな空気と水は北海道のかけがえのない財産です。
もっとすてきな北海道に向け環境にやさしい経営を継続します。
事業活動における環境への影響を「見える化」しました。
-
- 20P** **LOCAL ACTIVITY**
安全・安心な北海道を目指して協働の取り組みを続けています。
-
- 22P** **SOCIAL SERVICE**
笑顔がある、感動がある。たくさんの育てたい「未来」があります。
地域にときめきと感動を！社会に広がる、もっと素敵なおふれあいを目指して。
-
- 26P** **CUSTOMER SATISFACTION**
一人ひとりのお客さまへ、もっと、できることを探します。
ぜひ一度、工場見学へお越しください。
-
- 30P** **CORPORATE GOVERNANCE**
だれからも親しまれ、信頼され続ける企業でありたい。
-
- 32P** **QUALITY CONTROL**
安全・安心をお届けするために、地道な活動を続けています。
-
- 34P** **ENVIRONMENTAL PERFORMANCE**
環境活動を数値で表しました。
-
- 36P** **CORPORATE PROFILE**
北の大地の未来へ想いをつなぎ、地域とともに、また一歩。
-

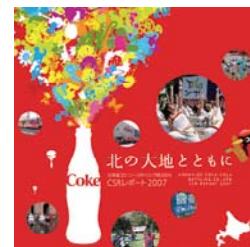
【CSRレポート バックナンバー】

バックナンバーは下記の当社ホームページでご覧いただけます。

<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/company/csrreport.html>



CSRレポート2006



CSRレポート2007

ごあいさつ

私たち北海道コカ・コーラボトリング株式会社ならびにグループ各社は、「北の大地とともに」成長することを願い、道産子企業としての責任を果たすことで、北海道民のみなさまや当地を訪れるみなさまに信頼され、選ばれる企業グループとなることを目指しています。

私たちは北海道の優れた水と、北海道民のみなさまに支えられ、今年 2008 年で創立 45 年を迎えることができました。私たちにとって大切な「水」やお客さまは、私たちの力そのものです。

これから私たちが果たすべき役割は、この大切な「水」を守る幅広い環境配慮活動に精一杯の努力をすることと、これまで以上に私たちの北海道にお役に立てる事業活動をする事だと考えています。

そのためにも私たちは、地域のみなさまやパートナーのみなさまとの「対話」を大切にし、「みなさまとともに考え、行動していくこと」で

果たす社会的責任を経営基盤の一つとして、地域に根ざしたきめ細かな事業活動を推進してまいります。

これからも北海道のみなさまとともに「持続可能な社会」を実現するために、積極的な活動を続けてまいりたいと考えています。

このレポートをお読みいただき、当社グループの考え方や活動に対する、より多くの方々のご理解をいただき、ご意見やご協力をいただければ幸いです。



代表取締役

角野中原

北海道のみなさまに、 「さわやかさと潤い」をお届けします。

経営理念

私たちは、21世紀の創発的な
社会に貢献する。

経営指針

私たちは、

- 1 生活者やパートナーに「さわやかさと潤い」を提供します。
- 2 生活者やパートナーとの共存共栄を図るとともに地域社会に貢献します。
- 3 変革にチャレンジし、活力ある創発的な企業グループをつくります。

社員行動規準

- ・私たちは、常に「さわやかさと潤い」を届けます。
- ・私たちは、生活者やパートナーとのコミュニケーションを大切にします。
- ・私たちは、一人ひとりがさわやかな存在になります。
- ・私たちは、時代の変化に適応し変革を起こし続けます。
- ・私たちは、「環境に、地域に優しい」企業活動を実践します。
- ・私たちは、良き「企業市民」として社会に貢献します。

北海道コカ・コーラグループ 中期経営計画

変化への挑戦 ～北の大地とともに～

私たち北海道コカ・コーラグループは、
道産子企業として地域社会に信頼され、
ともに発展していくことを目指します。

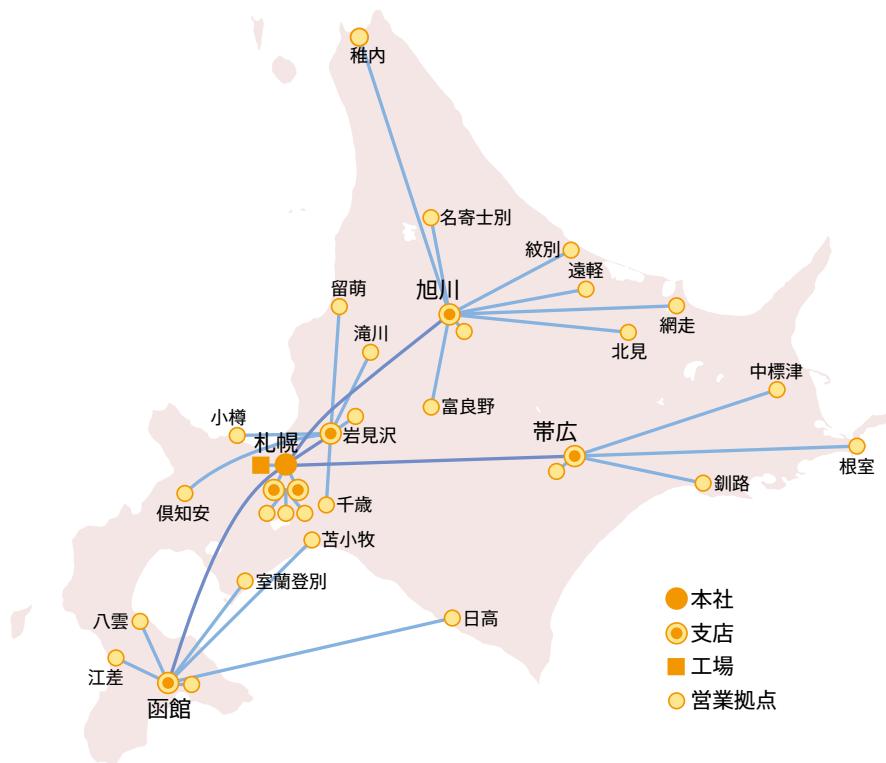
- お客様の視点に立って、製品・サービス・プロセスをつくります。
- 地域好感度が高く、わくわくするグループを目指します。
- 人と人をうるおし、元気で豊かなまちづくりに貢献します。

北海道にさわやかな暮らしを広げるため、
いつも全力投球しています。



さわやかさのネットワーク

北海道コカ・コーラボトリングのさわやかさのネットワークは、札幌の本社を中心に広く全道各地に拠点網を形成しています。この北海道で、いつでも、どこでも、だれにでも、変わらない味をお届けできるのも、地域に密着したネットワークがあるからこそ可能なのです。



お役に立てる自動販売機を目指して活動を継続しています。

【2007年から】 地域防災マップの掲示

斜里町では、自動販売機に町が作成した防災マップを掲示しています。



【2007年から】 『防犯ほっとインフォメーション』 の展開

北海道警察との協働により事件情報などを配信しています。

▶ 7P参照

【2006年から】 『おしらせ道ねっと』の展開

道の駅で道路情報などを配信しています。

▶ 7P参照

【2006年から】 『防災協力自動販売機』の展開

自治体との協働で、防災情報や地域情報を配信しています。

▶ 6P参照



【2006年から】 知床世界自然遺産の 環境保全活動を応援

自動販売機の売上金の一部を斜里町、羅臼町が行う知床の環境保全活動に寄付しています。

▶ 10P参照



たくさんの方々に喜んでいただける
夢のある自動販売機の展開になるよう努めます。



【2005年から】 ノンフロン型 自動販売機の導入

フロンを使用しない自動販売機を段階的に導入し、2020年までに全面的に切り替えます。
(当社エリア内では130台導入)



【2005年から】 地域の防犯啓発に協力

地域の警察署と連携して防犯ポスターを自動販売機に掲示しています。

▶ 20P参照

【2005年から】 観光のお手伝い

地域の観光マップを、小樽や函館などで掲示しています。



【2002年から】 便利なキャッシュレス 自動販売機

おサイフケータイを使って飲料を購入できる自動販売機「Cmode (シーモ)」を展開しています。



【2005年から】 住所表示のステッカーを貼付

屋外設置の自動販売機に「住所表示」を行い、事件・事故など緊急時に通報する際、場所の特定ができるよう取り組んでいます。

【1995年から】 省エネルギーを推進

環境負荷低減に向けて、自動販売機の電力消費量を削減するため、メーカーと共同開発した省エネ型自動販売機を導入しています。

▶ 14P参照

街角に、暮らしに、自動販売機で広げる安全・安心のネットワーク。

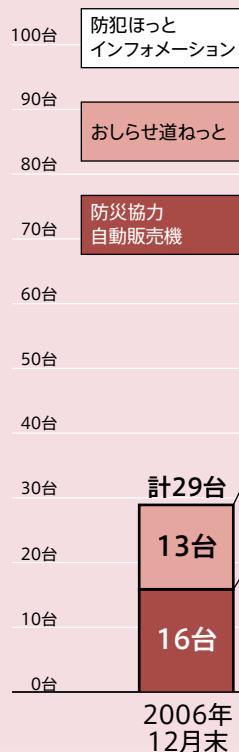
地域のネットワークを支える「電光掲示板付き自動販売機」とは？

パソコンからのインターネットを活用した遠隔操作により、自動販売機の上部に搭載する電光掲示板に、文字情報をリアルタイムで表示することが可能です。また、同様の遠隔操作により、自動販売機を無料で使用できるように設定することができます。

この機能を活用して、自治体・行政から、防災情報や災害情報、地域のイベント情報、お知らせなどを配信するとともに、災害発生時には、自治体の判断で、自動販売機内の飲料を無料で提供します。



電光掲示板付き自動販売機の運用台数



地域協働の取り組み①

地域防災力を強化する『防災協力自動販売機』の展開

平常時からの地域防災力強化を目指して、北海道や各市町村と当社との協定に基づき、防災情報や災害情報、地域情報などを配信するほか、災害発生時には、自治体の判断で、自動販売機内の飲料を無料で提供する「防災協力自動販売機」を展開しています。

▶ 21P参照



自治体	協定締結日
釧路市	2006. 5. 29
恵庭市	2006. 5. 31
白糠町	2006. 8. 29
北海道	2006.12. 22
音更町	2007. 5. 28
斜里町	2007. 6. 21
根室市	2007. 6. 28
帯広市	2007. 8. 3
福島町	2007. 9. 11
新篠津村	2007.10. 3
当別町	2007.10. 29
新ひだか町	2007.11. 9
湧別町	2007.11. 22
上湧別町	2007.11. 22

自治体	協定締結日
鹿部町	2007.11. 30
南幌町	2007.12. 5
別海町	2007.12. 18
増毛町	2008. 1. 16
鷹栖町	2008. 1. 23
上川町	2008. 1. 31
小平町	2008. 2. 7
初山別村	2008. 2. 7
安平町	2008. 2. 27
釧路町	2008. 3. 4
松前町	2008. 3. 14
秩父別町	2008. 3. 18
遠軽町	2008. 3. 28

1道4市20町2村 計27自治体

地域の毎日にしっかりつながる、
街の自動販売機を目指します。

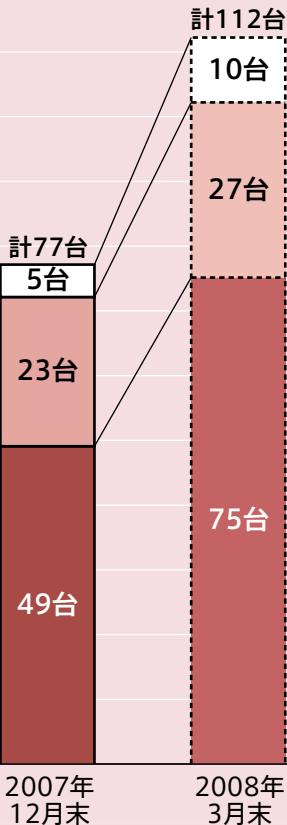


地域協働の取り組み②

道の駅での情報提供『おしらせ道ねっと』の展開

国土交通省北海道開発局と各市町村、当社との協定に基づき、道の駅などでの新たな情報提供手段として、地域や道路利用者の方々に、道路情報や地域情報を配信するほか、災害発生時には、自治体の判断で、自動販売機内の飲料を無料で提供する「おしらせ道ねっと」を展開しています。

▶ 21P参照



自治体・行政	協定締結日
神恵内村	2006.10. 5
倶知安町	2006.10. 6
ニセコ町	2006.10. 6
真狩村	2006.10. 6
蘭越町	2006.10. 6
留寿都村	2006.10.11
島牧村	2006.10.11
余市町	2006.10.12
積丹町	2006.10.12

自治体・行政	協定締結日
岩内町	2006.10.13
黒松内町	2006.10.13
赤井川村	2006.10.16
厚沢部町	2007. 3. 26
乙部町	2007. 4. 26
せたな町	2007. 5. 24
喜茂別町	2007. 6. 8
福島町	2007. 7. 9
上ノ国町	2007. 7. 20

自治体・行政	協定締結日
羅臼町	2007. 7. 31
寿都町	2007. 8. 23
北海道開発局函館開発建設部	2007.10.17
北海道開発局小樽開発建設部	2007.10.22
湧別町	2008. 2. 21
上湧別町	2008. 2. 21
遠軽町	2008. 3. 28

18町5村2開発建設部 計25自治体・行政

地域協働の取り組み③

安全・安心な街づくり『防犯ほっとインフォメーション』の展開

北海道警察とは、札幌市内の警察署(札幌方面中央警察署、札幌方面白石警察署)と当社との協定に基づき、地域の防犯意識の高揚をはかり、安全・安心な街づくりを推進するため、警察署から防犯広報や身近な事件情報などを配信する「防犯ほっとインフォメーション」を展開しています。

▶ 20P参照

警察署	協定締結日
札幌方面中央警察署	2007. 3. 15
札幌方面白石警察署	2007.12. 12

計2警察署



地球にやさしい、 人づくりの輪を応援しています。

We Love "Water Planet"

2007年7月、コカ・コーラシステムの環境に対する思いや取り組みを広く社会に伝えるため、新たな環境メッセージ「We Love "Water Planet"」を発表しました。

コカ・コーラにとって最も大切な資源の一つである「水」を中心に、水の惑星である地球の環境を守っていこうという姿勢のもと、環境への取り組みをさらに推進していきます。



環境教育・保全活動を応援

財団法人コカ・コーラ教育・環境財団では、毎年地域の環境教育・環境保全を行っている個人・団体を表彰し、その活動を応援しています。2007年、北海道からは「知床自然愛護少年団(斜里町)」「札幌市立平岡小学校(札幌市)」「ニセコ町子どもの遊びと文化塾(ニセコ町)」の3団体が受賞しています。コカ・コーラ環境教育賞を受賞した「知床自然愛護少年団」は、屋久島で表彰式とあわせ開催された「コカ・コーラ環境フォーラム」に参加しました。



知床自然愛護少年団

「わくわく体験ランド北海道」

コカ・コーラシステムでは、2006年より環境分野における活動の一環として、特に水資源保護を目的とした「森に学ぼう」プロジェクト(後援:環境省、林野庁)をスタートしています。北海道では2007年9月、当別町道民の森で、「第2回 わくわく体験ランド北海道」を開催しました。当日は約100名の親子が200本の苗木を「コカ・コーラの森」に植樹し、ネイチャーゲームや自然工作を通じて「自然と触れあうことの楽しさ」を当社スタッフと一緒に体験し、楽しんでいただくことができました。



当別町道民の森
「コカ・コーラの森」にて

「環境」をキーワードに、
一緒になって考えること、できることに取り組みます。



環境イベントへの参加

札幌市が主催する「さっぽろエコライフ10万人宣言」に、当社グループ1,100人を超える社員・家族が参加しました。2007年3月、この宣言への参加および当社の環境への取り組みに対し、上田札幌市長より表彰を受けるとともに、当社の活動について発表しました。



また、「環境広場さっぽろ」、「函館エコフェスタ」など、地域の環境イベントやシンポジウムへ積極的に出席・参加し、当社の環境への取り組みの紹介とあわせ、環境啓発活動のお手伝いをしています。



環境広場さっぽろ



函館エコフェスタ

青少年の環境活動を応援

札幌市内の小学生サッカーチームが環境活動レポートやゲームを通してポイントを競い合う「かんきょうみらいカップ2007」や、道内の高校生が参加し環境問題について議論する「北海道高校生サミット」のほか、小学生を対象に、Qoo電車（札幌市）で、環境教育を行う「みんな集まれ！エコチル環境教育電車」に協力しました。



かんきょうみらいカップ2007



みんな集まれ！エコチル環境教育電車

環境美化優良校を表彰

社団法人食品容器環境美化協会の「第8回環境美化教育優良校表彰」事業において、北海道からは根室市立海星小中学校が「散乱防止活動部門」優秀校、帯広市立森の里小中学校が「リサイクル部門」優良校に選ばれました。当社は北海道地区の幹事として活動しています。



根室市立海星小中学校



帯広市立森の里小学校

ゆたかな環境について、 ともに考え、ともに歩む企業を目指します。

知床の自然保護活動を応援しています

世界自然遺産として登録された知床地域は、北海道民にとって世界に誇る大切な財産です。

当社は、この地域の自然保護活動に対する応援事業として、2006年に斜里町、2007年に羅臼町と、町内に設置したすべての当社自動販売機の売上金の一部を寄付する協定を締結しています。

この取り組みは、当社自動販売機をご利用いただいた「お客さま一人ひとりの知床の自然環境保護を応援するお気持ち」を具体化する応援活動として、地域のお客さまと協働で取り組んでいるものです。

両町内でこれまで応援して下さったお客さまは、2年間でのべ246万人となりました。当社はこの活動を続けることで、地域の自然保護活動を応援していきます。



斜里町への
寄付金贈呈



羅臼町への
寄付金贈呈



羅臼町の自動販売機

斜里町との連名で
お客さまへのお礼状を
自動販売機に掲示



ご協力ありがとうございます

斜里町と北海道コカ・コーラボトリング株式会社は
平成十八年五月から、この自動販売機をご利用して
いただいた売上上げの一部を
知床半島の自然環境の保全活動に充てる協働事業を
行っております。

この度皆様からお預かりした平成十八年度分の寄付金は
五月十六日、斜里町の
「知床世界自然遺産の保護管理と適正利用基金」に
積み立ていたしました。

寄付の金額は、町広報誌等で紹介させていただいて
おりますが、
今後は、これらの資金を野生鳥獣対策や適正利用事業に
活用していくこととしております。

本年度も引き続き

皆様と一緒に知床の自然環境の保全活動を推進して
まいりますことを申し上げます。
ご報告と御礼に代えさせていただきます。

平成十九年五月十六日

北海道コカ・コーラボトリング株式会社
斜里町

いま、北海道に心やかな
環境コミュニケーションが広がっています。



北海道の環境保護活動を応援しています

北海道の環境保護活動を応援するため、2007年10月、「ジョージア サントスプレミアム 北海道限定知床デザイン缶」の売上金の一部を、販売数に応じて寄付する協定を北海道と締結しました。

当社はこれからも、お客さまとともに、自然と共生する地域づくりを応援していきます。



環境保護活動を応援する協定を締結
(2007年10月)



第一回の寄付金贈呈(2008年5月)

環境美化活動を推進

世界自然遺産に登録された知床地区の美化運動や、函館市の「クリーン・ウォーキング作戦」、洞爺湖周辺の国道453号線を清掃する「よごさんキャンペーン」など、地域の環境美化活動に積極的に参加するほか、各事業所では毎月周辺地域の清掃活動を実施しています。



知床地区の美化活動



クリーン・ウォーキング作戦(函館市)



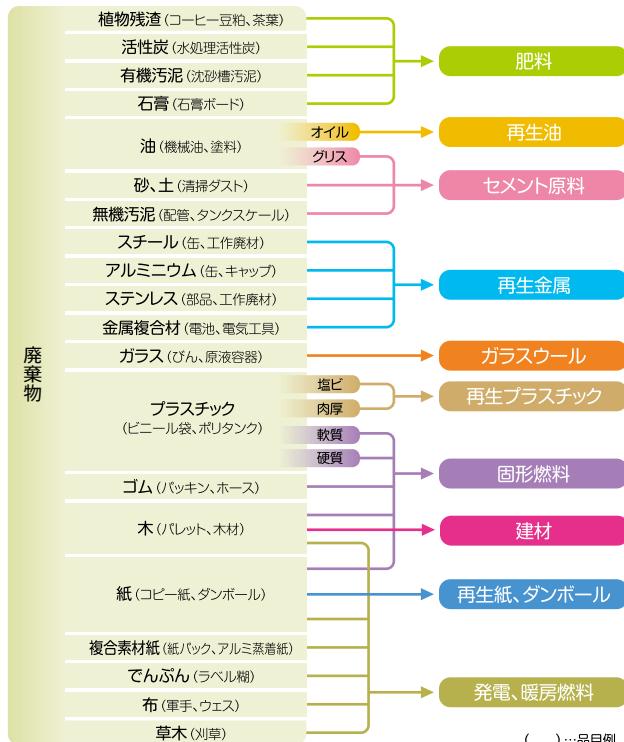
事業所周辺の清掃活動

いまでもこれからも リサイクルの取り組みを続けます。

札幌工場は「ゼロエミッション」

札幌工場では、2000年より廃棄物の埋め立てと単純焼却処理を一掃し、すべてをリサイクルする「ゼロエミッション」活動に取り組み、2001年11月末時点で目標を100%達成しました。今後も「ゼロエミッション」活動を継続していきます。

■ゼロエミッションの内容



自動販売機のリサイクル

2007年に耐用年数等により廃棄した自動販売機等は約7,800台です。廃棄自動販売機は、金属・非金属などに分別され、リサイクル・埋立て・焼却などの方法で処理します。この結果、現時点では金属類を中心に自動販売機の85%~90%がリサイクルされています。また、廃棄自動販売機のフロンは自社グループで回収し、適正に処理しています。



※フロンへの対応

オゾン層に影響を与えるフロン(CFC・HCFC)を冷媒として使用する自動販売機の新規導入を中止し、オゾン層にまったく影響を与えない代替フロン(HFC)への切り替えを進めてきました。さらに、地球にやさしい「ノンフロン型自動販売機」の導入を進めています。

空容器の回収やさまざまなリサイクルを通して、
環境負荷の少ない循環型社会を目指します。



容器の軽量化とリサイクル

コカ・コーラシステムでは省資源化を目指して、容器の軽量化を進めています。

回収された空容器は「識別マーク」によってリサイクルが推進され、2006年の国内における容器別リサイクル率は次の通りとなっています。



スチール缶	88.1%	スチール缶リサイクル協会
アルミ缶	90.9%	アルミ缶リサイクル協会
PETボトル	66.3%	PETボトルリサイクル推進協議会
ガラスびん ※カレット利用率	94.5%	ガラスびんリサイクル促進協議会

リサイクルPET素材のラベルを採用

コカ・コーラシステムでは、PETボトルのリサイクルを促進するために、2005年に清涼飲料業界で初めてリサイクルPET材料を10%混合したラベルを採用しました。さらに、2007年3月からは、混合比率25%の新しい環境配慮型PETラベルを「からだ巡茶410ml PET」に採用しています。



このラベルは、PETボトルリサイクル推進協議会が認定するPETボトルリサイクル推奨マークを、飲料用PETラベルとして日本で初めて取得しました。

紙カップのリサイクル推進

カップ自動販売機で使用済みとなった紙カップの回収・リサイクルを推進しています。また、当社で使用するトイレトペーパーは、2000年9月より紙カップのリサイクル品を購入し使用しています。

グリーン調達・グリーン購入

当社のユニフォームには、PET再生繊維(ポリエステル)を53%以上使用しています。

空容器回収ボックスは、PET・PE・PPなどの再生プラスチックを使用しています。

文具・事務用品および名刺は、再生品などの環境面に配慮された製品を購入しています。



きれいな空気と水は 北海道のかけがえのない財産です。

北海道のきれいな「空気」を守るために

1)省エネ型自動販売機の導入

1995年より当社では、蛍光灯の調光機能をはじめ、夏場の電力消費ピーク時に電気の使用をカットするピークカット機能や、冷却効率を大幅に向上させた「省エネ型自動販売機」を積極的に導入し、全稼働台数の95%以上を占めています。現在の自動販売機は、1991年型機に比べ50%以上の省エネを実現しています。

2)エコドライブ宣言

車両から排出される二酸化炭素(CO₂)などの削減に向けて、当社グループ全体で6項目の「エコドライブ宣言」を行い、事業所内や各車両にポスターやステッカーを掲示して、環境にやさしい運転に努めています。

エコドライブ宣言!

- 100ka 3%悪化: 不要な荷物を積み込みません。
- 10分間 130cc浪費: 無用なアイドリングをしません。
- ムラのある走り 2~6%悪化: 定速走行に努めます。
- 20%不足 3%悪化: タイヤの空気圧をチェックします。
- ふんわりスタート 最初の5秒で時速20キロ 11%改善: 急発進・急加速・急停止をしません。
- エンジンブレーキ使用 2%改善: エンジンブレーキを適用します。

環境に配慮した運転をします **eko system**



3)「グリーン経営認証」を取得

グループ会社の幸楽輸送(株)は、2006年1月に社団法人全日本トラック協会が認定する安全性優良事業所の「Gマーク」を全事業所で取得。2006年11月には、交通エコロジー・モビリティ財団が認定する「グリーン経営認証」を取得しました。同社では事業所や車両に両認定マークやステッカーを掲示して、積極的に安全運行や環境保全に努めています。



4)クリーンエネルギー車の導入

LPG車、ハイブリッド車、天然ガス車など、CO₂や粒子物質(PM)、窒素酸化物(NO_x)等の排出が大幅に少ないクリーンエネルギー車を導入しています。

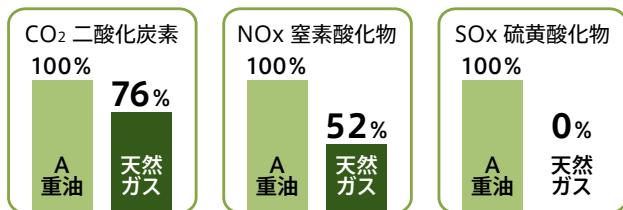


「空気と水」今、この貴重な資源を大切に使用し、環境への負荷を少なくすることが求められています。



5) ボイラー燃料に「天然ガス」を使用

地球温暖化防止を目指した取り組みの一環として、札幌工場では、ボイラー設備を改造して、2002年3月から、すべての生産設備用のボイラー燃料を、「A重油」から不純物を含まないクリーンな燃料である「天然ガス」に切り替えました。これにより、CO₂の排出量は24%、NO_xは48%削減されSO_xは排出ゼロとなりました。



6) PETボトルの自社成形による輸送量の軽減

製品に使用するPETボトルは、従来ボトルメーカーで成形されたものを札幌工場まで輸送していましたが、2002年のボトル成形機導入によって、500ml以下のPETボトルをプリフォーム(PETボトルの原形)から成形することが可能となりました。約8分の1の容積のプリフォームを運ぶことで輸送効率が向上し、環境負荷が大幅に削減されました。



クールビズ・ウォームビズを実施

当社は、環境省の地域温暖化防止に向けた取り組みとして、オフィス室温を夏季は28℃、冬季は20℃とする「クールビズ」「ウォームビズ」を全社で実施しています。当社では年間発生するCO₂の量を約120t(25%)削減することができました。

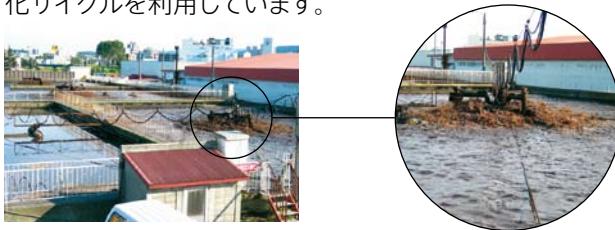
北海道のきれいな「水」を守るために

1) 水使用量の削減

当社にとって水は最も重要な原材料であり、また貴重な資源です。札幌工場では2003年、容器の洗浄水、製品の殺菌工程からの回収水や、冷却水などを循環利用するために、節水設備を導入しました。これにより、約2,400トン/日(20時間稼動時)の節水が可能になりました。

2) 工場排水処理

札幌工場では、排水を専用の施設で処理し、国の排水基準を遵守していることを確認のうえ、河川へ放流します(一部は公共下水道を使用)。この排水処理システムは「ラグーン処理方式」と呼ばれるもので、微生物の自己浄化サイクルを利用しています。



もっとすてきな北海道に向け 環境にやさしい経営を継続します。

環境への取り組み

当社の環境理念・環境行動指針をより積極的実践するために、2003年より「eKOシステム」を本社・札幌工場で、2005年からは営業部門で運用を開始しました。eKOシステムとは、環境マネジメントシステムの国際標準規格であるISO14001や英国の規格であるBS7750等を参考に、コカ・コーラシステムのために設計された独自のシステムです。

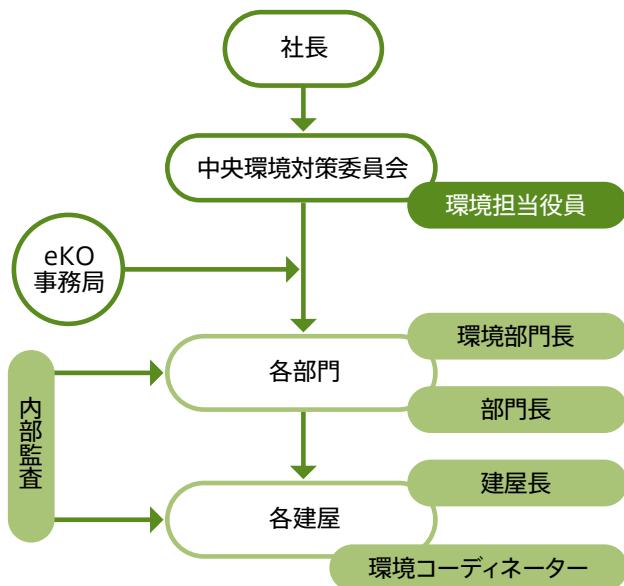


環境理念

北海道コカ・コーラボトリング株式会社は、責任ある企業市民として、地球環境の保全に配慮した企業活動を行い、地域社会の豊かな環境の維持と社会の継続的な発展に貢献します。

環境行動指針

1. 環境関連法規、規制、条例、地方自治体との協定を遵守します。
2. 企業活動に伴う廃棄物の削減と再資源化を促進します。
3. 省エネルギー、省資源に努め、環境負荷を低減します。
4. 環境に配慮した物品の購入(グリーン購入)を促進します。
5. 飲料容器の散乱防止の啓もう活動を行うとともに、地域社会の環境美化活動を支援します。
6. 環境保全に対する全社員の意識向上を図り、全社を挙げて環境保全活動に取り組みます。

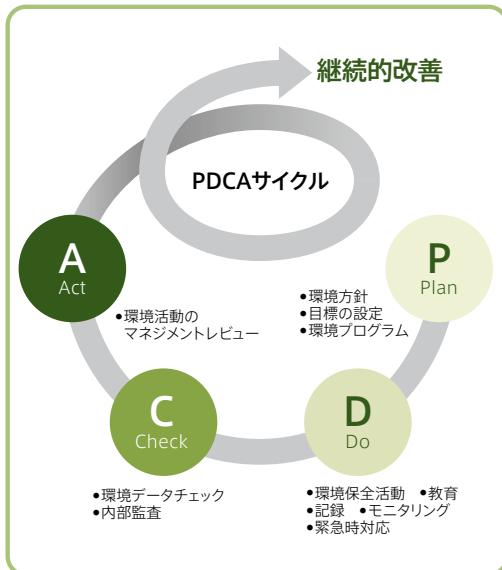


北の自然の未来につながる、
環境マネジメントシステムを実践しています。



eKOと「PDCAサイクル」の仕組み

eKOシステムは、コカ・コーラシステムの環境理念と環境方針のほか、eKOシステムの要求事項等を規定した「eKOスタンダード」を中心として構成されています。これは環境方針に基づいた業務活動の「Plan (計画) - Do (実行) - Check (点検) - Act (見直し)」をひとつのサイクルとして繰り返し行い、環境に与える影響を特定して継続的に改善する仕組みとなっています。



3つの負荷低減を目指します

eKOシステムは、清涼飲料業界の主な環境負荷である3つの項目を中心に、さまざまな環境改善プログラムを実施します。



水の使用量

水の有効利用に取り組むとともに、排水量を削減します。



エネルギー使用量

エネルギー利用の効率化を図り、CO₂などの大気への排出量を削減します。



廃棄物発生量

原材料使用量を適切に管理し、廃棄物の削減・再資源化も推進します。

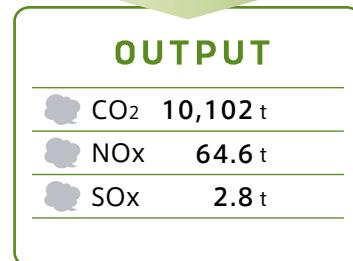
※eKO(イー・ケー・オー)とは、ニューヨーク証券取引所におけるザ・コカ・コーラカンパニーの愛称"KO"に、"environment"(環境)の頭文字を組み合わせたものです。

事業活動における環境への影響を「見える化」しました。



製造 (199千kl)

車両



ゼロエミッション(リサイクル率100%)

※集計方法については35Pをご参照願います。

事業プロセスごとの「投入量」(INPUT)と「排出量」(OUTPUT)を集計することで、どの部門がどれくらい環境に負荷を与えているかを把握して積極的な環境保全活動を行っています。



びん・缶・PETボトルの
リサイクル

INPUT



水	21 千m ³
電気	6,435 千kWh
灯油	454 kl
重油	316 kl
天然ガス	251 千m ³
LPG	4.0 千m ³

事業所、オフィス、物流倉庫で
使用するエネルギー

管理・営業

OUTPUT

水	21 千m ³
CO ₂	5,242 t
NO _x	1.8 t
SO _x	2.8 t

INPUT



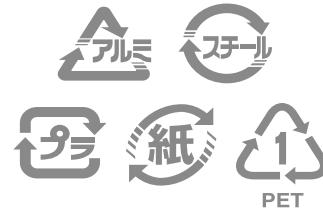
電気 117,513 千kWh

自動販売機が
使用するエネルギー

自動販売機

OUTPUT

CO₂ 49,473 t
(発電に伴う排出)



回収・ リサイクル

空容器
回収・リサイクル量
881t

ダンボール
回収・リサイクル量
1,329t

安全・安心な北海道を目指して 協働の取り組みを続けています。

2006年7月より推進、全道に広がる 「子どもの安全を見守る運動」



角野社長から高橋北海道知事へ当社が企画・デザインしたポスター、ステッカーを寄贈(2006年7月)

子どもが狙われ、被害を受ける犯罪が激増している昨今、当社は「大人だけが子どもの安全を守ることができる」というコンセプトのもと、官民が一体となって「子どもの安全を見守る運動」を推進することを北海道へ政策提案し、道民運動として採択されました(北海道が2006年度赤レンガチャレンジ事業として推進する「民間企業等とのタイアップ事業」第1号)。今では全道に広がる「道民運動」へと拡大しています(約3,750団体、20,000台の車両が参加<2008年1月現在>)。当社もグループをあげて、全道の事業所と車両(約1,200台)にポスターやステッカーを掲出し、子どもたちの安全を見守っています。



車両ステッカー



地域の安全・安心を応援

「子どもの安全を見守る運動」の補完とあわせ、日頃から地域の防犯意識を高める活動として、電光掲示板付き自動販売機を活用した「防犯ほっとインフォメーション」を、札幌市内の警察署との協働で展開しています。

また、各事業所では、「子どもの安全を見守る運動」による自主防犯活動への意識高揚を図るため、地域の警察署の方を招いて、防犯ミーティングを定期的実施しています。

そのほか、防犯を呼びかけるポスターを地域の自動販売機に掲示するほか、全道各地で地域の警察署と連携して、安全・安心なまちづくりを応援しています。



各事業所での防犯ミーティング



歳末特別警戒出発式への参加

地域と人びとの暮らしのために、
できることを一歩一歩着実に協働していきます。



2006年9月より拡大続く 北海道開発局との協働事業

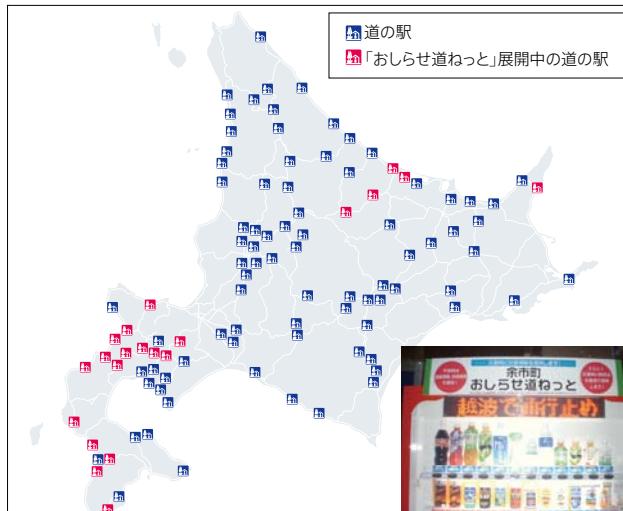
2006年9月に締結した、国土交通省北海道開発局との試行協定を満了し、2007年9月、新たに「競争力ある美しく個性的な北海道の実現」等を目的とした基本協定を締結しました。この協定に基づき、「道の駅」で道路情報や地域のイベント情報などを配信する「おしらせ道ねっと」を全道に展開しています。

また、美しい景観や自然・文化などを通じ、魅力的な北海道を目指す「シーニックバイウェイ北海道」の応援として、新千歳空港内「コカ・コーラリフレッシュコーナー」などで、PR映像の放映を行っています。

そのほか、2007年11月、「第27回日本道路会議」におい

て、北海道開発局から発表された「おしらせ道ねっと」の取り組みが優秀賞を受賞しました。

当社は、これからも北海道の活力ある地域づくりを協働していくパートナーとして、さまざまな活動を展開していきます。



「おしらせ道ねっと」全道展開

2006年12月よりはじまる 北海道全域の防災パートナー

2006年12月、地域の飲料水備蓄基地の代行を柱に道内全市町村を包括する「災害時における飲料の供給等防災に関する協力協定」を北海道と締結しました。この協定に基づき、電光掲示板付き自動販売機を活用した、各市町村との協働の取り組みを展開しています。



防災パートナーの開始(2006年12月)

2007年8月には、北海道が主催する「北海道防災総合訓練」に民間企業として初めて参加し、飲料物資の輸送訓練や電光掲示板付き自動販売機のデ



モンストレーションなどを行いました。

北海道防災総合訓練



笑顔がある、感動がある。 たくさんの育てたい「未来」があります。

青少年の交流と挑戦の場を提供

2007年7月、北海道新聞社主催の「北海道青少年交流プログラム」が開催されました。これは海外9カ国の青少年と道内の中学生が交流し、人と自然の関わりや日本の文化を体験することを目的としたイベントで、当社は毎年特別協賛しています。

また、2007年8月には、東京で「第3回高校生音楽創作コンテスト」(通称:音楽甲子園/コカ・コーラシステムとして特別協賛)が開催され、北海道からは札幌平岡高校軽音楽部「ViViSell」が代表として出場しました。



北海道青少年交流プログラム



北海道青少年交流プログラムに参加した
フィリピンの子どもたち



札幌平岡高校軽音楽部「ViViSell」

スポーツを通して応援

コカ・コーラシステムでは、青少年の情操教育に役立つという観点から、「社団法人日本一輪車協会」への支援を行っており、当社は「さわやか北海道一輪車大会」に毎年協賛しています。

また、「北海道中学校駅伝大会」にも毎年協賛するなど、スポーツを通じた心身の健全な育成活動を応援しています。



さわやか第22回北海道一輪車大会



第25回北海道中学校駅伝大会

北の大地の未来をひらく、
さまざまな可能性を大切に见守り、育てています。



教育支援活動

国際性豊かな青少年を育てるために英語の普及を推進する「高円宮杯全日本中学校英語弁論大会」の共催をはじめ、学生に奨学金を支給する「財団法人 コカ・コーラ教育・環境財団」の北海道支部として育英活動を行っています。また、インターンシップの受け入れを行うなど、学生の社会参画や就業体験の場を提供しています。



高円宮杯全日本中学校英語弁論大会



職場体験学習の様子

福祉施設にクリスマスプレゼントを40年

1968年より、毎年12月に道内各市町村の福祉施設へ、クリスマスプレゼントとして当社製品をお届けしています。



2007年度は合計約7万本の寄贈を行い、1968年からの累計は207万本となりました。

地域社会に広がる福祉活動

1980年から「社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会」への支援活動を行っており、2007年2月には「札幌肢体不自由児者父母の会」より感謝状をいただきました。また、当社社員の有志によるバンドが、福祉施設などで14年間継続して音楽活動を行っており、2007年12月には、この功績が認められ福祉財団より感謝状をいただきました。



札幌肢体不自由児者父母の会より
感謝状の授与



当社社員有志によるバンド演奏

被災地への支援活動

2007年6月、北見市内全域で断水事故が発生した際、北見営業所では、当社ミネラルウォーターを当日中に北見市へ無料でお届けしました。市ではこれを、お年よりやおからだのご不自由な方々のために使用し、後日、北見市や市民の方からお礼の連絡をいただきました。

2007年7月に発生した新潟県中越沖地震の被災地へ、コカ・コーラシステムとして、救援物資の提供とあわせ、1,500万円の義援金を寄贈しました。

地域にときめきと感動を!社会に広がる、 もっと素敵なふれあいを目指して。

北海道のプロスポーツとともに地域を応援

2007年3月より、「北海道日本ハムファイターズ」とスポンサー契約を結び、応援キャンペーンを実施するほか、コカ・コーラシステムの人気キャラクター「Qoo」が、球団マスコットの「B・B」とのコラボレーションにより、道内各地の幼稚園を訪問しました。また、クライマックスシリーズには、本社前にオリジナル応援フラッグを掲示しました。北海道のプロサッカーチーム「コンサドーレ札幌」とは、2003年よりスポンサー契約を結び、コンサドーレマーク入り自動販売機(ドーレBOX)を設置して、その売上金の一部を運営資金として協賛するほか、2007年1月には「コンサドーレカップ全道サッカーフェスティバル」に協賛、2007年9月には、「コンサドーレ札幌こどもサッカー教室」を主催するなど、私たちは北海道のプロスポーツ団体とともに地域を応援していきます。



B・BとQooのコラボレーション



本社前でのオリジナル応援フラッグ



コンサドーレカップ全道サッカーフェスティバル



コンサドーレ札幌こどもサッカー教室

YOSAKOIソーラン祭り

初夏の札幌を鮮やかに彩る「YOSAKOIソーラン祭り」をオフィシャルスポンサーとして応援しています。第16回となった2007年は、参加が341チーム(海外3チーム)となり、観客動員数も過去最高の216万人を突破しました。当社は、地元の札幌国際大学と協働して「コカ・コーラ札幌国際大学チーム」として14回の出場を果たしています。



2製品が「北のブランド」に認証

「ジョージア サントスプレミアム 北海道限定知床デザイン缶」は、世界自然遺産に登録された「知床」の風景と「北海道イメージアップキャンペーン」ロゴを施し、北海道の観光や地産地消を応援しています。

2007年1月には、ナチュラルミネラルウォーター「オロフレ山溪水」を加えた2品が、札幌商工会議所の「北のブランド」の認証を受けました。



※「北のブランド」とは
北海道の企業が生んだ、優れた
「モノ」を、札幌商工会議所が「北
のブランド」として認証するもの。

さまざまな感動への声援が、
しっかりと社会を支える力になっていきます。



北海道の冬の風物詩に参加・協賛

2007年2月、「第58回さっぽろ雪まつり」が開催され、2会場に休憩・販売ブースや自動販売機を設置したほか、Qooとの撮影会などを行いました。

また、11月22日から12月16日には、当社が協賛する「第6回ミュンヘン クリスマス市 in Sapporo」が開催され、会場となった大通公園で、温かい飲み物を提供しました。



Qoo撮影会

毎年12月には、札幌市の路面電車で「コカ・コーラクリスマス電車」を運行しています。これは2000年から実施しているもので、通常のコカ・コーラ電車でクリスマスの飾りつけ



「シーニックナイト」を応援

2007年より、「灯りが繋ぐ雪のみち」をテーマに、シーニックバイウエイ北海道の「支笏洞爺ニセコルート」をキャンドルの灯りでむすぶ「シーニックナイト」に、協賛とキャンドル点灯で応援しています。



を施し、コカ・コーラとクリスマスのつながりをPRするとともに、乗車されたお客さまには、クリスマスプレゼントとして、当社製品の無料提供を実施しました。

そのほか、コカ・コーラシステムでは、テレビCMで有名な、特別なイルミネーションを施した「コカ・コーラクリスマスイルミネーショントラック」による全国キャラバンを実施し、2007年12月には札幌の冬の夜を彩りました。



さっぽろ雪まつり会場風景

一人ひとりのお客さまへ、 もっと、できることを探します。

Coke Side of Life ハピネス大作戦!!

2007年4月、お客さまにさわやかさをお届けできる売場づくりを目指し、海外から応援に駆けつけたコカ・コーラ関係者とともに、道内各地で「Coke Side of Life ハピネス大作戦」を展開。お客さまに安心してご利用いただくため、当社の角野社長はもとより、日本コカ・コーラ(株)のセイヤー社長が、自ら自動販売機の清掃活動や品揃えの見直しを手がけるなど、コカ・コーラシステム一丸となって展開しました。



お客さまと角野社長・セイヤー社長

コカ・コーラ ハピネスバレンタインパーティー

2007年2月、札幌駅南口広場で「コカ・コーラ ハピネスバレンタインパーティー」を開催し、3メートルの氷のコカ・コーラボトルを展示したほか、レギュラーコークの無料提供などを行いました。



いつでも、どこでも、
コカ・コーラのある生活を楽しんでほしいから。



コカ・コーラ HAPPINESS GAME開催!

2007年8月、「コカ・コーラ HAPPINESS GAME」として、「北海道日本ハムファイターズVS千葉ロッテマリーンズ」が札幌ドームで開催されました。この試合には、「コカ・コーラが贈る夏休みの思い出づくり 北海道日本ハムファイターズ応援キャンペーン」に当選された札幌市内の小学生が、始球式や選手と一緒に守備位置につくキッズスターターを務めるなど、子どもたちの思い出づくりを演出しました。



コカ・コーラレッドで埋めつくされた札幌ドーム

「こどものまち ミニミニさっぽろ2007」 でコカ・コーラ カフェ出展

2007年9月に開催された「こどものまち ミニミニさっぽろ2007」では、「仮想の町」で働く子どもたちの体験の場として「コカ・コーラ カフェ」を出展しました。



ぜひ一度、工場見学へお越しください。

ようこそ!札幌工場へ。

札幌工場では創業以来「見学ツアー」を実施しています。2007年10月には、年間来場者が初の1万人を達成し、記念セレモニーを開催しました。ツアーでは、当社の「製品ができるまで」を案内員がわかりやすく解説するほか、環境への取り組みや社会貢献活動も紹介しています。また、見学コースの一部リニューアルとあわせ、映像機器の充実を図りました。



わくわくコミュニケーションルームでのビデオ上映



立体自動倉庫

大型立体自動倉庫

当社の立体自動倉庫は、約2万棚を有する高さ31メートルの倉庫棟と荷さばき棟からなる大型設備です。2002年11月に本格稼動し、約200万ケースを収容可能です。



■工場見学来場者数

(単位:人)

見学者	2005年	2006年	2007年
保育園・幼稚園児	1,619	2,510	3,310
小学生	1,817	2,451	3,205
中学生	467	676	822
高校生	139	355	344
大学生	256	313	274
一般(個人・団体)	2,190	3,030	4,696
その他	59	125	67
合計	6,547	9,460	12,718

ツアーのご案内

(所要時間 約60分)

お客様の声にお応えし、7~9月は土曜日も見学いただけます。



冷えたコカ・コーラと記念品をご用意していますので、たくさんのおみなさまのお越しをお待ちしています。

概要説明

15分

製造工程
立体自動倉庫見学
25分

ビデオ上映

20分

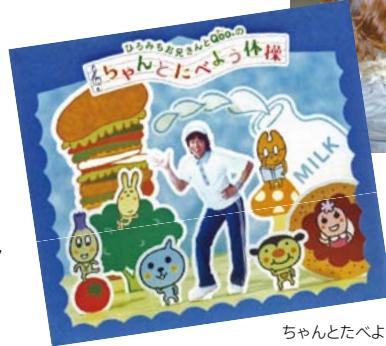
札幌工場は、みなさまの「社会見学の場」としても
ご利用いただいております。



子どもたちの心と体の健康をサポート

コカ・コーラシステムでは、食育支援活動の一環として、医学博士 坂本元子先生(和洋女子大学副学長)の監修により、NHK教育番組「おかあさんといっしょ」の第10代目「体操のお兄さん」佐藤弘道さんが考案した「ちゃんとたべよう体操」(通称:Qoo食育体操)を開発しました。2006年7月より、Qooが幼稚園や保育園へ訪問し、体操を通じて食育を応援しています。

そのほか、2007年12月には、「工場見学クリスマス特別企画」を実施し、工場見学に加え、親子でクリスマスリースの製作などを行いました。当社はこれからも、子どもたちの心と体の健康をサポートする活動を展開していきます。



ちゃんとたべよう体操



工場見学クリスマス特別企画



札幌工場見学のお申し込み方法

工場見学はあらかじめお申し込みが必要です。
直接お電話またはお手紙でご予約ください。

- 見学できる時間 毎週月曜～金曜日(午前10:00～12:00・午後1:30～4:00 祝祭日も可)
※祝祭日は一部休みの日もあります。 ※7～9月は土曜日も見学いただけます。
- 所要時間 約60分(ご要望に応じて調整することができます。) お申し込み・お問い合わせ
- 場所 札幌工場 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号 **011-888-2091** (広報・CSR推進部 広報課)



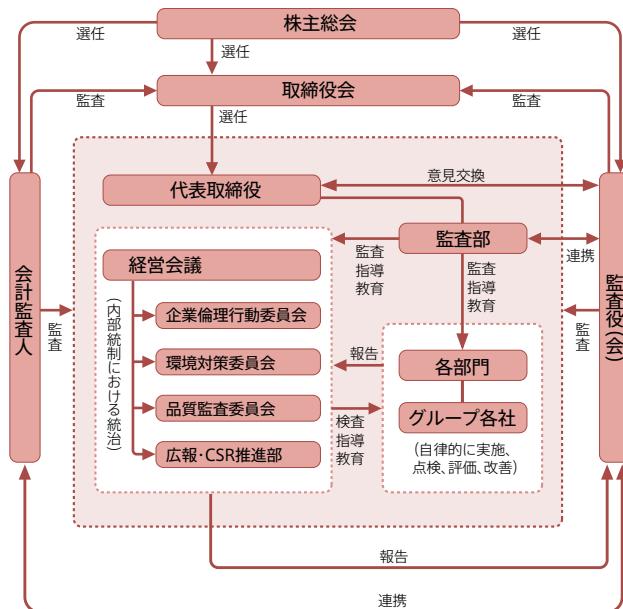
工場見学パンフレット

だれからも親しまれ、 信頼され続ける企業でありたい。

企業としての社会的責任を果たす

企業倫理とコンプライアンスの重要性を認識し、企業の社会的責任(CSR)を果たすことを経営上の最も重要な課題の一つと位置づけています。お客さま、株主・投資家のみなさま、お取引先さま、社員など、さまざまなステークホルダー(利害関係者)との良好な関係を築くとともに、的確な経営の意思決定、それに基づく業務執行、適正な監督・監査を可能とする経営体制を構築し、総合的にコーポレート・ガバナンスの充実が図られるよう努めています。

■コーポレート・ガバナンスおよび内部統制の模式図



企業倫理活動への取り組み

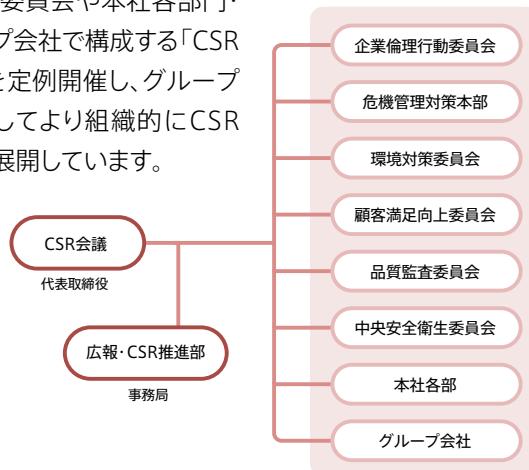
良き企業市民であり続けるために、1997年12月に設置した「企業倫理行動委員会」のもと、企業倫理活動を推進しています。また、社員が上長などに相談しにくい場合の相談窓口として匿名性の確保と相談内容の機密保持に万全を期した「オープンドア・ルーム」を運用しています。



グループ全社で実施している車両運行前のアルコール計測(2007年1月より)

CSR会議の定例開催

CSR経営を推進するうえでの現状分析と課題の抽出に取り組み、地域に貢献する企業市民として適切な活動ができるよう、各委員会や本社各部門・グループ会社で構成する「CSR会議」を定例開催し、グループ全体としてより組織的にCSR活動を展開しています。



地域のみならずから信頼され、いつまでも
さわやかな企業でありたいと願っています。



「自立型」の人材育成

日々複雑化・多様化する社会の中では、お客さま一人ひとりのニーズに合わせて柔軟に対応していかなければならないことから、地域やお客さまの多様な課題を自ら率先して発見し、その解決に向けて主体的に行動する人材の育成に努めるとともに、自己の能力開発に積極的に取り組む社員を応援するプログラムを提供しています。

自己啓発と技能向上

自己啓発のための通信教育プログラムでは、仕事に役立つ知識や資格取得などのコースを用意し、業務関連のコース修了者には、受講料の50%～80%を援助しています。また、2007年2月に開設されたトレーニングセンターでは、より専門的な教育も実施しています。



■教育体系図

		管理職		一般職		
社内集合教育・研修	階層別教育	部長研修	課長研修	新任課長研修	アップ研修 新入社員研修	
	職種共通	人事考課者研修 メンタルヘルス ライン研修			パソコン基礎 パソコン応用 財務基礎	
		IMCR・内部統制研修			企業倫理研修 CSR・環境研修 個人情報管理研修	
		メンタルヘルス セルフ・ケア研修			通信教育 CAPA	
		スタッフ			スタッフ基礎研修	
		営業			営業財務研修 子ハリーダー研修	ACP研修 マナー研修 品質管理研修 営業基礎研修
	製造	係長研修 班長研修			製造基礎研修	
		品質管理・安全衛生研修				
	技術	安全衛生研修				技術基礎研修
	社外派遣教育	CCBC人材育成研究会	SMC研修	MC研修	BMC研修	
DNP研修部		上級管理職研修				
		上級幹部社員研修			営業企画セミナー	

安全・安心をお届けするために、地道な活動を続けています。

全社でISO9001:2000の認証を取得

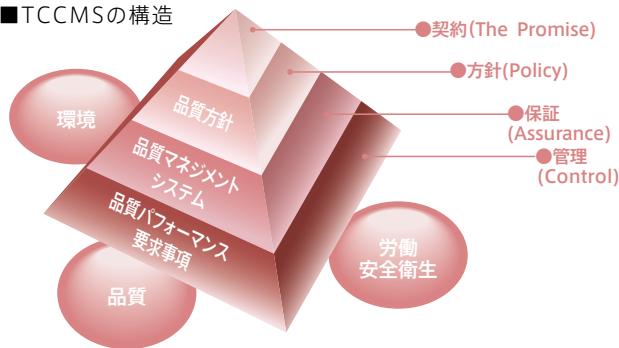
2007年2月、全社（製造・販売・管理部門）を対象に、品質マネジメントシステムの国際標準規格[ISO9001:2000]の認証を取得し、グループ全員で経営品質を高めていく活動に取り組んでいます。



製造部門の取り組み

札幌工場は、コカ・コーラシステム独自の総合品質保証システムであるTCCMS(The Coca-Cola Management System)によって工程管理・監視を行い、製品の安全性を追求するとともに品質の向上を図っています。

■TCCMSの構造



※TCCMSには、ISO9001（品質マネジメントシステム）、HACCP（危害分析重要管理点方式による管理）、ISO14001（環境マネジメントシステム）、OHSAS18001（労働安全衛生マネジメントシステム）の要求事項が含まれています。また、札幌工場は、環境マネジメントシステムの認証取得へ向け準備中です。

新鮮な製品をお届けするために

お客さまのお手元に届くまでの鮮度管理目標や製品取扱管理基準を設け、賞味期限切れや容器不良の根絶に取り組んでいます。特に、工場倉庫出荷から自動販売機へ装填されるまでの管理や在庫の適正化、缶ウォーマーの温度管理などのガイドラインを設定し、安全かつ高品質な製品とサービスの提供に努めています。

1)複数の検査士による味覚検査

最新機器を使って製品検査を行うほか、機器による検査がむずかしい「味覚」については、適性検査に合格した複数の官能検査士による味覚検査を実施しています。

2)製造設備の徹底したメンテナンス

良好な製造設備の状態を維持するために、定期的にすべての設備を停止し、機械・装置等の整備や洗浄・殺菌を行うとともに、測定機器類の校正などの徹底したメンテナンスを実施しています。

3)水質の安全性を保証

水源（地下水）の環境を保全し、良好な水質を保っています。また、工場で用いるすべての水について、食品衛生法・水道法をはじめとした全150項目以上の定期的な分析を実施し、その安全性を保証しています。

4)業務改善を積極的に推進

機械効率の向上やロスの減少を目指し、積極的な業務改善を推進しています。小さなことから「ムリ・ムダ・ムラ」がないかを検証し、札幌工場では改善活動発表会をはじめとする改善提案活動を推進することにより、作業方法の変更や標準化、作業負荷の軽減を図っています。

いつでも、どこでも、変わらない「おいしま」と「さわやか」づくりに取り組んでいます。

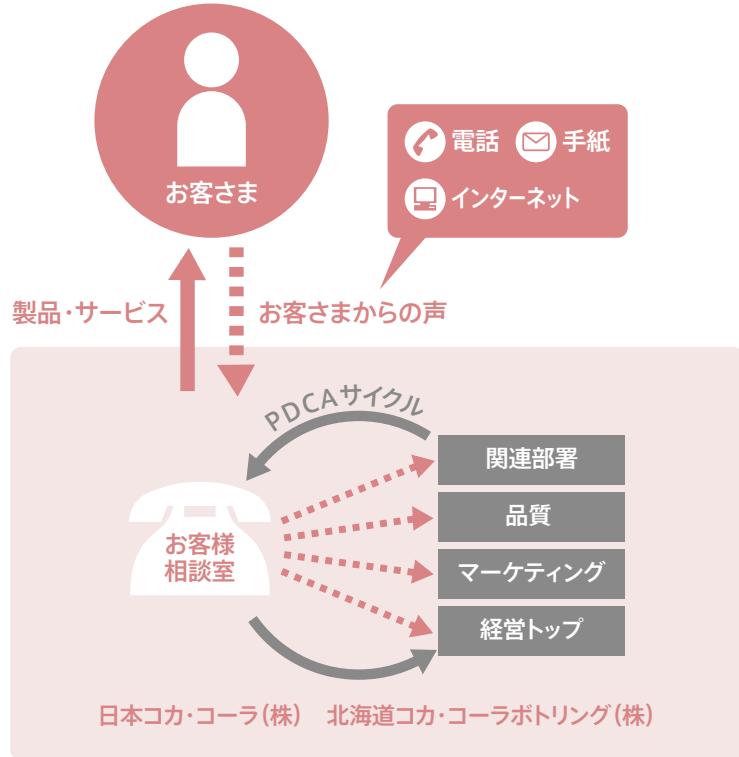


お客様の声を大切にします

私たちは当社の窓口である「お客様相談室」に寄せられる、ご指摘・ご提案・お問い合わせなど、お客さまからいただく声を大切にしています。

「ISO10002」への適合を宣言

お客さま対応全般が、ご指摘(苦情)対応の国際規格「ISO10002」に適合していることを確認し、2007年8月に適合を宣言いたしました。今後も、お客さまの声を積極的に企業経営に活かし、安全・安心な製品、サービスを提供するとともに、お客さまにご安心・ご満足いただける対応をより一層充実させていきます。



お客様相談室



サワヤカコーク
0120-308509

(土日祝祭日を除く9:30~17:00)

URL <http://www.cocacola.co.jp>

環境活動を 数値で表しました。

環境会計

2007年における当社環境保全活動の取り組み内容と結果を環境会計(環境省ガイドライン参考)で表しました。

環境保全コスト

工場排水処理槽に堆積した土砂・汚泥の抜き取り処分費用や使用済み空容器回収経費、環境支援活動費の増額などにより環境保全コストは前年増となっています。

なお、廃棄物の分別の推進とあわせ、委託経費の見直しを進めたため、資源循環コストについては減額となっています。

環境保全コスト

単位:千円

項目	主な取り組みの内容	2006年		2007年	
		投資額	費用額	投資額	費用額
1.事業エリア内コスト	計	29,000	137,916	2,020	155,881
(1)公害防止コスト	工場排水処理 他		49,789		71,186
(2)地球環境保全コスト	工場節水設備・省エネルギー設備 他	29,000	35,568	2,020	33,433
	自動販売機のフロン回収・破壊		14,622		18,966
	クリーンエネルギー車導入(天然ガス車・ハイブリッド車)		557		1,691
(3)資源循環コスト	各事業所の廃棄物の処理・リサイクル		31,113		22,477
	自動販売機の処理・リサイクル		6,267		8,128
2.上・下流コスト	計		76,648		79,867
	空容器の回収・リサイクル		35,081		35,598
	空容器回収ボックス・空容器回収用ポリ袋		40,956		43,763
	再商品化委託費 他		611		506
3.管理活動コスト	計		30,261		30,712
	環境負荷の測定		22,322		21,932
	eKOシステム構築・運用、環境コミュニケーション		7,939		8,780
4.社会活動コスト	計		4,750		5,499
	業界団体活動、環境支援活動 他		3,697		4,448
	本社構内緑化保守		1,053		1,051
	合計	29,000	249,575	2,020	271,959

環境保全効果

工場生産数の増加にともないCO₂排出量・井水使用量が増加していますが、省エネ型自動販売機の積極的導入による消費電力の低減、オフィスでの省エネの徹底、エコドライブの推進や配送ルートの見直しによる車両燃料削減などにより、総エネルギー使用量・総CO₂発生量を低減することができました。

今後も環境への負荷を低減するため、効果的な環境保全活動を継続していきます。

環境保全活動に係わるコストと効果を把握し、
効率的な環境経営を実施しています。



効果1 環境保全効果

項目	単位	2005年	2006年	2007年		
		実績値	実績値	実績値	対前年 増減率(%)	
計	t-CO ₂	87,823	85,296	82,756	-3.0%	
CO ₂ 排出量	製造	t-CO ₂	15,251	17,109	17,939	4.9%
	自動販売機	t-CO ₂	56,708	52,545	49,473	-5.8%
	管理・営業	t-CO ₂	5,286	5,274	5,242	-0.6%
	車両	t-CO ₂	10,579	10,368	10,102	-2.6%
総エネルギー使用量(熱量換算)	GJ	1,904,297	1,844,576	1,786,448	-3.2%	
NO _x 排出量	燃焼設備	t	7.1	7.7	8.0	2.9%
	車両	t	67.7	66.3	64.6	-2.6%
SO _x 排出量	燃焼設備	t	3.6	3.0	2.8	-7.0%
	車両	t	3.0	2.9	2.8	-2.7%
井水使用量	t	1,146,493	1,262,250	1,378,838	9.2%	
上水使用量	t	15,300	13,359	11,020	-17.5%	
工場排水COD排出量	t	10.4	12.1	11.2	-7.6%	
工場排水BOD排出量	t	1.4	2.8	2.8	-1.5%	
工場廃棄物発生量	t	4,766	4,678	4,408	-5.8%	
自動販売機など販売機器の廃棄台数	台	7,601	7,204	7,809	-	
フロンガス回収・破壊量(廃棄時回収)	kg	2,182	1,598	1,881	-	

※販売数量比(2007/2006) = 0.994 生産数量比(2007/2006) = 1.065

効果2 環境保全対策に伴う経済効果

内容	単位	2005年	2006年	2007年
リサイクルにより得られた有価物の売却額 (自動販売機筐体、缶、PET、プラスチック、古紙等)	金額(千円)	21,996	21,145	50,174

<集計方法について>

当年(2007年)より集計方法(集計範囲・算出方法等)を一部見直したため、過年度(2005年・2006年)数値も変更しています。

- ・CO₂は電力・燃料より、NO_x・SO_xは燃料より算出しています。
- ・燃料由来のCO₂排出量は「地球温暖化対策推進法施行令」に基づく換算係数より算出しています。
- ・電力由来のCO₂排出量は環境省「環境活動評価プログラム」の排出係数より算出しています。
- ・NO_xは環境省「環境活動評価プログラム」の排出係数より算出しています。
- ・SO_xは燃料の組成より理論値を計算し算出しています。
- ・自動販売機の電力使用量を集計範囲に含めています。
- ・管理・営業の項目には物流倉庫の数値を含めています。
- ・車両の項目には当社製品等を運搬している外部委託車両の燃料使用量を含めています。

北の大地の未来へ想いをつなぎ、 地域とともに、また一步。

沿革

1963年 1月	北海道飲料株式会社として設立
3月	コカ・コーラおよびファンタの販売を開始
9月	商号を北海道コカ・コーラボトリング株式会社に改称
12月	本社工場竣工(製品第1号誕生)
1965年10月	コカ・コーラ250ml缶の販売を開始
1966年 4月	コカ・コーラホームサイズ(500ml)の販売を開始
1967年12月	本社工場に第2ラインを増設
1970年 3月	本社工場に第3ラインを増設
1971年 5月	本社工場に第4ラインを増設
10月	スプライトの販売を開始
1972年 2月	コカ・コーラ350ml缶の販売を開始
11月	第11回冬季オリンピック札幌大会に全面協賛、支援 本社工場に缶ラインを増設し、缶製品の自社生産を開始
1973年 4月	東北満庵株式会社と合併、株式の額面金額を変更
8月	株式を東京証券取引所市場第2部および札幌証券取引所に上場
1976年 4月	ジョージアコーヒーの販売を開始
1982年 4月	機能性飲料 リアルゴールドの販売を開始
1983年 5月	スポーツ飲料 アクエリアスの販売を開始
1988年10月	本社ビル竣工(創立25周年記念事業)
1991年 4月	カナダライジンジャーエールの販売を開始
1992年 3月	ティー飲料 紅茶花伝の販売を開始
1994年 3月	ティー飲料 爽健美茶の販売を開始
1998年 3月	ティー飲料 煙の販売を開始
1999年 5月	創業以来10億ケースの販売を達成
7月	ダイエットコカ・コーラの販売を開始
11月	果汁飲料 Qooの販売を開始
2001年 6月	紙パック製品(プリパック)の販売を開始
2002年 5月	日韓共催のサッカーワールドカップに全面協賛、支援
11月	本社工場に立体自動倉庫を新設
2003年 1月	本社工場に無菌充填ラインを増設
2005年 1月	本社工場を札幌工場に名称変更
3月	札幌工場リニューアル ティー飲料 ー(はじめ)の販売を開始
2006年 3月	コカ・コーラ社製品の製造を行う「北海道コカ・コーラプロダクツ株式会社」を設立
5月	コカ・コーラ生誕120周年 ティー飲料 からだ巡茶の販売を開始
2007年 2月	全社で「ISO9001:2000」の認証を取得
6月	コカ・コーラゼロの販売を開始

会社の概要

商号	北海道コカ・コーラボトリング株式会社 HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.
設立	1963年1月24日
代表者	代表取締役会長 北島 義俊 代表取締役社長 角野 中原
本社所在地	〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号 TEL(011)888-2001(総務部)
資本金	29億3,515万4千円
従業員数	575名(グループ1,269名)(2008年4月1日現在)
事業の概要	北海道を販売地域とした清涼飲料の製造および販売並びに食品等の販売
事業所	本社、札幌工場、支店(6)、営業拠点(27)
決算期日	毎年12月31日(年1回)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第2部、札幌証券取引所

グループ会社の概要

幸楽輸送株式会社	コカ・コーラ社製品の工場・営業所間の輸送、一般貨物輸送、倉庫業
北海道飲料株式会社	ミネラルウォーター他清涼飲料の製造
北海道サービス株式会社	一般事務処理業務、CD・ビデオの販売・賃貸、書籍等の販売、クリーニング業、清掃業等
北海道ベンディング株式会社	自動販売機のおペレーション業務
北海道マシメンテナンクス株式会社	各種自動販売機の修理、設置および撤去
北海道ビバレッジサービス株式会社	自動販売機による飲食品等の販売
北海道コカ・コーラプロダクツ株式会社	コカ・コーラ社製品の製造、飲料水容器の製造

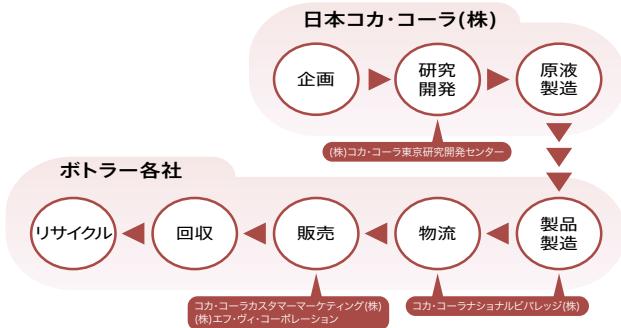
企業集団の財産および損益の状況の推移

区分	第44期 (2005年)	第45期 (2006年)	第46期 (2007年)
売上高	76,451 百万円	74,121 百万円	73,494 百万円
経常利益	156 百万円	665 百万円	1,358 百万円
当期純利益	111 百万円	88 百万円	835 百万円

北の大地とともに成長することを願い、
さまざまな事業活動を展開していきます。



コカ・コーラシステム



コカ・コーラウエスト
ホールディングス株式会社

- 三笠コカ・コーラ
ボトリング株式会社
- 近畿コカ・コーラ
ボトリング株式会社
- コカ・コーラウエスト
ジャパン株式会社

みちのくコカ・コーラ
ボトリング株式会社

北陸コカ・コーラ
ボトリング株式会社

仙台コカ・コーラ
ボトリング株式会社

利根コカ・コーラ
ボトリング株式会社

三国コカ・コーラ
ボトリング株式会社

東京コカ・コーラ
ボトリング株式会社

コカ・コーラセントラル
ジャパン株式会社

四国コカ・コーラ
ボトリング株式会社

南九州コカ・コーラ
ボトリング株式会社

沖縄コカ・コーラ
ボトリング株式会社

編集方針

「～北の大地とともに～北海道コカ・コーラボトリング株式会社 CSRレポート2008」は、当社グループのCSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任) に対する取り組みをわかりやすく開示し、ステークホルダー (利害関係者) のみなさまからご意見をいただき、北海道の明るい未来を形づくる持続可能な活動につなげることを目的に発行しています。

本レポートは、環境省「環境報告書ガイドライン (2003年版)」とGRI (Global Reporting Initiative) の「サステナビリティ・リポートニング・ガイドライン2002」を参考にしました。

[対象期間]

2007年1月1日～2007年12月31日。実績データは2007年度、活動内容の一部は2008年度も含まれます。

[対象組織]

原則的にグループ連結会社を対象としています(「グループ会社の概要」参照)。

[ご意見・ご感想]

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただくため、本レポートをお読みいただいたみなさまのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

作成部署・連絡先

北海道コカ・コーラボトリング株式会社

〒004-8588

札幌市清田区清田一条一丁目2番1号

TEL(011)888-2135 [広報・CSR推進部]

ホームページアドレス

<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

ボクはクマガラ。
体長50cmにもなる日本最大のキツツキ。
シマフクロウとならんで北海道を象徴する
森の鳥なんだよ。
ボクが暮らすには食べ物が豊富にある
広大な森林が必要で、
豊かな自然の証ともいえるんだ。
このレポートでは、
北海道コカ・コーラボトリングの想いを伝える
ナビゲーターとして活躍してるよ。



2008年7月発行

次回は2009年5月の発行予定です。

「～北の大地とともに～北海道コカ・コーラボトリング株式会社 CSRレポート2008」をお読みいただき誠にありがとうございます。

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただくため、みなさまのご意見・ご感想を、FAXまたは郵送にてお寄せいただければ幸いです。

に印をおつけください。

- Q1** このレポートについての評価をお聞かせください。
- | | | | |
|---------------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| ●内容の充実度 | <input type="checkbox"/> 充実している | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 不足している |
| ●情報量 | <input type="checkbox"/> 多すぎる | <input type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 少なすぎる |
| ●読みやすさ、わかりやすさ | <input type="checkbox"/> 良い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い |
| ●デザイン | <input type="checkbox"/> 良い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い |

- Q2** 特に興味を持たれた内容がありましたか？(いくつでも)
- ごあいさつ
- 北海道のみなさまに、「さわやかさと潤い」をお届けします。
[VENDING MACHINES] お役に立てる自動販売機を目指して活動を継続しています。
 街角に、暮らしに、自動販売機で広げる安全・安心のネットワーク。
[We Love "Water Planet"] 地球にやさしい、人づくりの輪を応援しています。
 ゆたかな環境について、ともに考え、ともに歩む企業を目指します。
 いままでもこれからもリサイクルの取り組みを続けます。
 きれいな空気と水は北海道のかけがえのない財産です。
 もっとすてきな北海道に向け環境にやさしい経営を継続します。
 事業活動における環境への影響を「見える化」しました。
- [LOCAL ACTIVITY] 安全・安心な北海道を目指して協働の取り組みを続けています。
[SOCIAL SERVICE] 笑顔がある、感動がある。たくさんの育てたい「未来」があります。
 地域にときめきと感動を！社会に広がる、もっと素敵なふれあいを目指して。
[CUSTOMER SATISFACTION] 一人ひとりのお客さまへ、もっと、できることを探します。
 ぜひ一度、工場見学へお越しください。
- [CORPORATE GOVERNANCE] だれからも親しまれ、信頼され続ける企業でありたい。
- [QUALITY CONTROL] 安全・安心をお届けするために、地道な活動を続けています。
- [ENVIRONMENTAL PERFORMANCE] 環境活動を数値で表しました。
- [CORPORATE PROFILE] 北の大地の未来へ想いをつなぎ、地域とともに、また一歩。

- Q3** どのようなお立場でお読みになられましたか？
- | | | |
|--|---|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> お客さま | <input type="checkbox"/> お取引先 | <input type="checkbox"/> 株主・投資家 |
| <input type="checkbox"/> 企業・団体のCSRご担当者 | <input type="checkbox"/> 行政関係 | <input type="checkbox"/> NGO/NPO |
| <input type="checkbox"/> 当社グループ社員・家族 | <input type="checkbox"/> 当社グループの事業所近隣の方 | <input type="checkbox"/> 学生 |
| <input type="checkbox"/> 研究・教育機関 | <input type="checkbox"/> 報道関係 | |
| <input type="checkbox"/> その他() | | |

Q4 その他、ご意見・ご感想などご自由にご記入ください。

◆ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下記もご記入ください。

性別/ 男性 年齢/ 16歳未満 16～20歳 21～25歳 26～30歳 31～40歳
 女性 41～50歳 51～60歳 61～70歳 71歳以上

アンケート送付先

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 広報・CSR推進部
〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL(011)888-2135



011-883-0249

